



# 1村1自然エネルギー プロジェクト

平成26年3月31日



団体名 Project X-one

職氏名 太田 伊智雄 

Project X-one は、信州の自然エネルギー資源を活かした「1村1自然エネルギープロジェクト」を以下のとおり推進しています。

区 分	摘 要			
取組の名称	温泉水利用の暖房機の開発			
取組の主体	Project X-one (下諏訪町企業の連携体)			
取組の構成団体名 (複数の音で構成する場合)	Project X-one ヤマネコクティ&デザイン・D.R Pocket・諏訪東京理科大学 ものづくり支援センターしもすわ			
普及する自然 エネルギーの種別 等	温泉熱エネルギー			
取組の目的	余剰温泉を利用した温泉ヒーターの開発			
地域関係者との協 働の内容	町内企業を主体に、大学、行政機関等と連携・協働			
プロジェクトの部 門	①地域づくり、②ソーシャルビジネス、③開発研究、④その他 (場作りなど)			
取組(事業)の段階	①構想段階 ②実施段階 ③発展段階			
取組の概要	下諏訪町内で湧き出る温泉の7割が使われないまま排出されて いる。この熱源を利用して温泉ヒーターを作る。燃料代は不要、 火を使わない為安全、空気が汚れない、クリーンな暖房機。			
事務局担当者の 連絡先	担当者所 属	ものづくり支 援センターし もすわ	氏名	中野敏廣
	TEL	0266-26- 2226	email	nakano@kabu-shimosuwa.jp



区 分	内 容
取組の内容	<p>下諏訪町の年間湧出量は260万キロリットルその内入浴に利用されているのは80万キロリットル残り180万キロリットルが利用されずに捨てられている。この余剰温泉水を利用した暖房機の開発を行っている。</p> <p>開発リーダー太田は12年前この温泉熱が「もったいない」と思いプロトタイプを開発試作した。しかし硫黄やカルシウムの成分で配管がつまったり、暖房能力が低かったり。世の中の自然エネルギーへの関心が低かったこともあり、開発は一時断念した。再開したのは2010年部品の供給が安く容易に入手出来るようになったことや、灯油が高騰し自然エネルギーが有利になってきた。町内の工業振興拠点「ものづくり支援センターしもすわ」の仲介で制御機器開発の[D.R Pocket]諏訪東京理科大の河村洋学長にもデータ計算で助言を仰ぎ2013年10月それぞれの知識や技術を掛け合わせた1号機が完成した。その製品は現在まで町老人福祉センターに設置している。2014年3月にはモニター機の完成から町内5世帯に設置予定である。</p>
取組を行うコミュニティの区域	下諏訪町、諏訪市
構成員の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヤマネコケリティ&amp;デザイン：開発・製作</li> <li>・D.R Pocket：制御機器開発</li> <li>・諏訪東京理科大学：データ等整理、助言</li> <li>・ものづくり支援センターしもすわ：コーディネート等</li> </ul>
現に活動しているかの有無	有り（平成25年10月1号機完成）
活動の成果等の帰属	下諏訪町住民・諏訪市
普及推進体制	プロジェクト構成員、関係機関が連携して普及推進を図る。
取組の有効性	地域資源を活用し、電力使用量や化石燃料使用量を削減し環境保全に寄与する。また、地元企業による暖房機器の開発により、地域経済の活性化に寄与する。
継続性及び発展性	温泉がでる限り下諏訪町内引き湯1700世帯に普及も可能 「暖房を全て温泉でまかなう町」の先進地となる。
関係法令の手続き状況	
団体設立年月日	23年11月7日
ホームページ	(URLを記載)
備 考	

添付書類 ①組織の規約（市町村の場合は不要）、②プロジェクトの概要書（別紙）、③構成員名